

各 位



2009年度下期の金属加工製品の生産予定について

品 目	単 位	2009年度下期 生 産 予 定	2009年度上期 生 産 見 込 み	2008年度下期 生 産 実 績
伸 銅 品	t/期 (t/月)	18,600 (3,100)	17,100 (2,850)	8,424 (1,404)
特 殊 鋼 製 品	t/期 (t/月)	420 (70)	480 (80)	462 (77)
合 計	t/期 (t/月)	19,020 (3,170)	17,580 (2,930)	8,886 (1,481)
(参 考) 製品長さ計	万m/期 (万m/月)	3,322 (554)	3,243 (541)	1,171 (195)

【解説】

当社金属加工事業の受注については、昨年秋以降の金融危機を背景にした世界的景気後退による大幅減から徐々に回復し、足元は昨年度上期比の9割程度まで回復してきております。しかしながら、国内外の緊急大型景気刺激策の一巡、米国を中心とした先進諸国の内需回復の遅れや、雇用不安の拡大など、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

かかる厳しい事業環境の下、当社は徹底したコスト削減を一層進めるとともに、新たな成長分野に積極的に進出してまいります。

第一に、当社が従来より重点的に開発、拡販を行ってきた高強度コネクタ用銅合金「NKT322」（ギガロイ）の増産であります。本製品は、従来のチタン銅の強度、曲げ性を格段に改善したもので、スマートフォンをはじめとする携帯電話関連ユーザを中心に徐々に認定、採用が進み、本年度上期後半より需要が急増しております。将来的にも旺盛な需要が見込まれるため、当社としては設備投資も含めた積極的な増産体制をとってまいります。

第二は、電気自動車、ハイブリッド車の普及に伴い急成長が見込まれる車載用リチウムイオン電池用の材料開発であります。今まで当社が培った圧延銅箔の技術により、板厚高精度、薄箔かつ長尺というこの分野のニーズに合致した材料を提供してまいります。さらに耐熱性が必要とされる用途には、熱処理後も高強度が維持できる「HS1200」を推奨してまいります。

これらにより、2009年度下期は、金属加工製品全体では、19,020トン（対前期比+8%、対前年度同期比+114%）の生産を計画しております。

以 上

お問い合わせ先： 日鉱金属株式会社
総務部総務担当 河田、檜崎
TEL：03-5573-7223